

平成30年度新聞協会賞「編集部門」応募作品一覧

「ニュース」部門	
被推薦者	作 品 名
朝日新聞社 朝日新聞東京社会部・大阪社会部の取材班 (代表) 大阪本社編集局社会部次長 (前東京本社報道局社会部次長) 羽根 和人	財務省による公文書の改ざんをめぐる一連のスクープ
〈作品概要〉学校法人・森友学園との国有地取引の際に作成した決裁文書を、昨年2月に取引が問題視された後、財務省が大幅に改ざんしていたことをスクープした。公文書管理法で「国民共有の知的資源」と定められる公文書の改ざんは、社会に大きな衝撃を与えた。	
毎日新聞東京本社 北朝鮮情勢取材班 (代表) 編集編成局外信部副部長 西岡 省二	「北朝鮮核実験場近くで染色体異常」のスクープと一連の報道
〈作品概要〉北朝鮮の核実験場付近で住民に染色体異常が生じるなどの被ばくの実態を、確かな根拠を提示しながら明らかにした。また北朝鮮元高官やモンゴル前大統領らへの単独インタビューを通じて北朝鮮の姿勢変化や今後進もうとする経済改革路線について他に先駆けて詳報した。	
読売新聞東京本社 編集局経済部 坂本 幸信 同 市川 大輔	大手銀行の構造改革を巡る一連の報道
〈作品概要〉みずほフィナンシャルグループが10年間で1万9000人を削減する方針を特報したほか、店舗・人員の縮小など、大手銀行の構造改革を相次いで報じた。マイナス金利政策などで収益環境が悪化した銀行の転機をとらえた一連の報道は、社会的な関心を集めた。	
日本経済新聞社 (代表) 名古屋支社編集部 工藤 正晃	「トヨタ、マツダに出資」などトヨタ自動車を巡る一連の特報
〈作品概要〉日本を代表する企業のトヨタ自動車が、単独で生き残る道を捨て、積極的に他社と組む経営方針の転換を特報した。提携企業は電機、IT企業へと産業の枠を越えて広がり、自動車産業が大変革の時代に入ったことを象徴するものとなった。	

「ニュース」部門	
被推薦者	作 品 名
東京新聞 加計疑惑取材班 （代表）編集局社会部 中澤 誠	加計ありき「首相官邸、内閣府が国家戦略特区提案」のスクープ
〈作品概要〉2015年4月、当時の柳瀬唯夫首相秘書官や内閣府幹部が愛媛県や同県今治市、加計学園幹部らに国家戦略特区活用を提案したことや、首相と加計孝太郎氏の会食などが記載された県文書入手、政府関係者の証言を得て東京新聞、中日新聞でスクープした。	
産経新聞東京本社 編集局外信部次長 矢板 明夫	「金正恩氏が電撃訪中」のスクープ
〈作品概要〉北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が2018年3月25日夜に訪中し、27日までに複数の中国共産党と会談した事実を独自のソースを通じてつかみ、ネット速報したほか、27日付の号外と大阪夕刊で特報、28日付の朝刊で解説記事とともに詳報した。28日午前に金正恩氏が帰国後、中朝双方が訪中した事実を発表し、世界中のメディアが大きく後追いした。	
スポーツニッポン新聞社 日馬富士暴行事件取材班 （代表）東京本社編集局スポーツ部専門委員 佐藤 博之	「日馬富士暴行疑惑 貴ノ岩頭蓋骨骨折」のスクープをはじめ、暴行の詳細から日馬富士引退までの一連の報道
〈作品概要〉平幕の貴ノ岩関が頭蓋骨骨折等で九州場所を休場したのを受け、その原因が横綱日馬富士による酒席での暴行であったことをスクープ。酒席には複数の力士が同席していたことも併せて報じた。これを受け、日馬富士は引退。角界の隠蔽体質も含めて国技を揺るがす社会問題になった。	
共同通信社 北朝鮮問題取材班 （代表）編集局次長 渡辺 陽介	北朝鮮亡命の党組織幹部証言など一連の北朝鮮報道
〈作品概要〉金正恩委員長の統治資金を管理する「39号室」元幹部にインタビューし、ロシアから石油製品を大量調達したとの証言を引き出した。また日本人拉致被害者の田中実さんら2人について北朝鮮が14年、日本政府に「入国していた」と伝えたとの新事実を報じた。	

「ニュース」部門	
被推薦者	作 品 名
産経新聞大阪本社 岸和田市長現金授受問題取材班 (代表) 編集局社会部 宝田 良平	「大阪府岸和田市長、選挙時 支持者に200万円提供」のスクープと一連の報道
〈作品概要〉平成25年11月の大阪府岸和田市長選で信貴芳則氏が自民推薦を得るため、関係者に200万円を提供したことをスクープ。推薦を得て初当選した信貴氏らの取材を重ね、「政治とカネ」の実態を暴いた。信貴氏は辞職、出直し選挙で落選。報道の力を示した。	
中日新聞社 大津支局「呼吸器事件」取材班 (代表) 編集局編集委員 秦 融	連載企画《西山美香さんの手紙》
〈作品概要〉患者の呼吸器を外して殺したと「うその自白」をし、冤罪を訴え続けていた獄中の元看護助手西山美香さん(逮捕時24歳、現在38歳)を救うため、大津支局の記者らが、両親への手紙の分析、受刑者との文通、獄中での精神鑑定をもとに連載記事で再審を訴えた調査報道。	
福井新聞社 「子犬工場」問題取材班 (代表) 編集局社会部 近藤 洋平	「子犬工場」問題の告発に関する報道とペットブームの裏側を探った連載「ペットと生きる」等一連の報道
〈作品概要〉犬や猫をまるで商品のように「生産」する「子犬工場」が福井県内にあり、約400匹を狭いコンクリート製囲いの中に入れる劣悪な飼育・繁殖の実態をスクープした。ペットブームが「動物虐待」的システムの上に成り立っていることを明らかにした。	
神戸新聞社 「のぞみ台車亀裂」取材班 (代表) 明石総局(前編集局報道部) 小西 隆久	スクープ「のぞみ台車亀裂で製造ミス」と背景報道
〈作品概要〉新幹線のぞみ台車亀裂問題で、川崎重工業による製造不備が台車の強度不足を招いていたことをスクープ。さらに、JR西日本が運行継続した2時間半を詳細に再現し、尼崎脱線事故の教訓「安全最優先」がないがしろになっている同社の内実を明らかにした。	

「ニュース」部門	
被推薦者	作 品 名
日本放送協会 報道局政治部副部長 岩田 明子	「天皇陛下退位 2019年 4月30日 有力」のスクープ
〈作品概要〉天皇陛下の退位の時期について2019年4月30日が有力であるというスクープを伝えた。退位の時期については12月31日や3月30日という情報が相次いだ、何よりも正確さを重視して速報することによって報道の信頼を取り戻した。	
日本放送協会 旧優生保護法問題取材班 (代表) 報道局スポーツニュース部副部長 (前社会部副部長) 中島 紀行	「旧優生保護法下の強制不妊手術」をめぐる一連のスクープ
〈作品概要〉旧優生保護法のもとで約1万6500人に強制的に不妊手術が行われ、救済されず放置されている事実を、独自入手の公文書や当事者の証言で他社に先駆けて報道し、被害者発掘と救済に道筋をつけた。残存資料が2割にとどまるなど救済への課題もいち早く報じた。	
TBSテレビ 中東支局取材班 (代表) 報道局外信部中東支局長 村瀬 健介	「シリア内戦 アメリカによる兵器供与の内実」の調査報道
〈作品概要〉シリア内戦で武装組織が手にする大量の兵器はどこから来るのか。取材班は、ブルガリアの村で起きたロケット弾の暴発事故を端緒にして、アメリカ政府が秘密裏に行ってきたシリア反体制派への兵器供与作戦に関わった当事者に取材し、その内実を明らかにする。	
日本テレビ放送網 報道局政治部 (代表) 報道局政治部長 小栗 泉	安倍首相 臨時国会冒頭解散へ スクープ報道
〈作品概要〉日本テレビは、9月16日「every. サタデー」のトップ項目で、「臨時国会の冒頭を含めた衆議院の早期解散論が急浮上」と他社に先駆けて放送。安倍政権が、冒頭解散に踏み切るのが得策と判断している根拠を示すと共に、政権内部にもある慎重論もあわせて具体的に提示した。	

「ニュース」部門	
被推薦者	作 品 名
関西テレビ放送 報道センター「森友学園問題取材班」 （代表）編成局編成部（前報道局報道センター） 田中 拓朗	森友学園問題音声データスクープ
〈作品概要〉森友学園問題で、関西テレビ取材班は学園と国の土地売却交渉の音声データを入手し、国が売却予定地から出たゴミについて、口裏合わせを持ち掛けた疑惑や、財務省の理財局長が価格の事前交渉は無かったとする答弁が虚偽だった、という疑惑をスクープ報道した。	

平成30年度新聞協会賞「編集部門」応募作品一覧

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
朝日新聞東京本社 編集局映像報道部 小玉 重隆 同 竹花 徹朗	グラフ・動画 連動企画「福島・帰還困難区域の四季」
〈作品概要〉福島第一原発事故から6年が過ぎた2017年夏から、帰還困難区域の四季を取材。夏の緑が覆う人の営み、秋の月が照らす主な住宅、業態が一転した冬のガソリンスタンド、変わらず咲き誇るサクラを、思いを寄せる人々の言葉を交え、紙面と動画で報じた。	
毎日新聞東京本社 編集編成局写真映像報道センター 佐々木 順一	「語り継ぐ命」 東日本大震災 七十七銀行女川支店 残された家族の思い
〈作品概要〉東日本大震災の津波に襲われた宮城県の七十七銀行女川支店行員遺族に約4年間、密着取材をした写真ルポルタージュ。避難場所の是非を問い、銀行と裁判をする中で、震災の教訓を語り部活動という形で後世に残す取り組みを続ける遺族の活動を追った。	
読売新聞東京本社 編集局写真部 守谷 遼平	氷を解かした友情
〈作品概要〉2018年2月に韓国で開催された平昌冬季五輪のスピードスケート女子500メートルで、小平奈緒選手がライバルで3連覇を狙う李相花選手を抑え優勝した。レース後に韓国国旗を手に泣き崩れる李選手を小平選手が抱き留め、語りかけている場面を撮影した。	
日本経済新聞社 「I N F O C U S」取材班 (代表) 編集局写真部次長 山口 朋秀	写真企画「I N F O C U S」 写真が語るニュース
〈作品概要〉英国のEU離脱問題やトランプ米大統領誕生により、世界の枠組みが変わりつつある。私たちの身の回りの生活にもAIの登場など科学技術の進化で大きな波が押し寄せる。時代のうねりに焦点を合わせた報道写真をデザイン性の高いレイアウトで読者に伝えた。	

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
東京新聞 「アナザーアングル」取材班 (代表) 編集局写真部 戸上 航一	写真連載「アナザーアングル」
〈作品概要〉日頃、見慣れた風景も時間や角度を変えることによって意外な世界が広がっている。大都会東京の街や構造物、身の回りにあるものに焦点を当て、レンズを通すことで初めて出合えるもう一つの視点「アナザーアングル」を毎月1回、読者に届けた。	
産経新聞東京本社 写真報道局 松本 健吾	闇に浮かぶ最高指導者
〈作品概要〉史上初の「米朝首脳会談」の前夜、シンガポール中心部を散策し“自撮り”する、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の撮影に成功した。 常に情報統制される北朝鮮で「最高尊厳」とされる金委員長の表情をとらえた貴重な1枚である。	
時事通信社 編集局映像センター写真部 小倉 健史	フラッシュを浴び謝罪する日大アメフト部選手
〈作品概要〉日大アメフト部の悪質タックル問題で、反則行為に及んだ選手が記者会見し、自分の弱さを悔いて謝罪した。その姿をフラッシュの逆光の中で切り取った写真は、1人の若者の心の内を照らし出すと同時に、問題の根深さを象徴する1枚となった。	
産経新聞大阪本社 写真報道局 恵守 乾	スクープ「イプシロン 夜空を彩る夜光雲」
〈作品概要〉1月18日早朝、鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所からイプシロン3号機が打ち上げられた。今回の打ち上げでは、彗星のような尾を引きながら飛行するイプシロンや、「夜光雲」と呼ばれる、オーロラのような美しい色彩を織りなす特殊な雲の撮影に成功した。	

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
北海道新聞社 編集局写真部編集委員 植村 佳弘	連載写真企画「風のいろ 北のみち 植村佳弘撮影行」
〈作品概要〉北海道と命名されて今年で150年。道路や海路、鉄路などさまざまな「みち」を通して、新たな出会いと文化の流れが生まれ、歴史を刻んできた。印象的な写真と文章で「みち」にまつわる物語を紹介。北海道の来し方、将来を読者とともに考えた。	
北海道新聞社 函館・トラピスチヌ修道院取材班 (代表) 函館支社報道部次長 梶山 征廣	写真企画・特集「光のもとで 函館・トラピスチヌ修道院」
〈作品概要〉函館市の「天使の聖母トラピスチヌ修道院」。観光名所として全国的な知名度を誇るが、修道女たちの暮らしぶりは知られていない。創設120年を前に「祈り」「労働」「読書」を三本柱に据え、神と向き合い続ける彼女たちの営みを四季ごとに切り取った。	
岩手日報社 編集局報道部 山本 毅	いわて音巡り
〈作品概要〉彩りあふれる岩手の四季。東日本大震災から7年余を経た被災地で見事に復活した郷土芸能や、豊かな恵みをもたらす海や大地。その力強さと温かさ、厳しさを、色鮮やかな写真と音で表現した。短くもなつかしい岩手の夏の輝きを追い、今も取材を継続している。	
岩手日報社 大谷翔平取材班 (代表) 東京支社編集部次長 斎藤 孟	二刀流 海を越え～大谷翔平の挑戦～
〈作品概要〉岩手で礎を築き、北海道で二刀流が開花した大谷翔平選手。今季からは大リーグでベーブ・ルース以来の二刀流に挑戦する。その軌跡を11年にわたって追った。	

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
上毛新聞社 編集局写真映像部上州百景取材班 (代表) 編集局写真映像部長 石田 貞之	連載企画「上州百景」
〈作品概要〉群馬県内に残る語り継ぎたい文化や伝統、人、残したい風景などにカメラを向けた写真企画。「上州百景」のタイトルから連載回数は100回。1テーマを10回とし、10テーマに区切った。4月から翌年5月までの1年余りにわたり随時、掲載した	
山梨日日新聞社 広告局広告営業部（前編集局地域報道部） 山本 昂輝	山梨市職員採用を巡る汚職事件で、警視庁の事情聴取を受けるため自宅を出た望月清賢市長
〈作品概要〉2017年8月7日、山梨市職員採用試験を巡る汚職事件で、警視庁の事情聴取のため自宅裏口から出て、用意された車へ走る望月清賢市長をとらえ、翌日付本紙1面で報じた。不正への関与を疑われ、追い詰められた為政者の「最後の姿」を紙面に記録し、読者の関心に応えた。	
京都新聞社 編集局写真部 松村 和彦	連載「こんなはずじゃなかった」
〈作品概要〉先駆的に地域医療に尽くした医師早川一光さんが90歳でがんを患い、感じたのは「こんなはずじゃなかった」。「診る側」から「診られる側」になった老医師を通じ、老いの心象風景、在宅医療・福祉の課題など超高齢社会を視覚的に表現、理想の姿を見つめた。	
神戸新聞社 「フォトノオト」取材班 (代表) 編集局映像写真部デスク 三浦 拓也	写真企画「フォトノオト」
〈作品概要〉祭り囃子、職人の手さばき、夜空を焦がす花火…。カメラを向ける時、その場の音や人の声に心引かれることがある。「写真（フォト）の音（オト）」をテーマに兵庫県の様々なシーンを取材。動画付きで、見て読んで聴いて楽しいビジュアル紀行を展開している。	

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
愛媛新聞社 松山市内暴走車撮影グループ （代表）編集局スポーツ・映像報道部 柳生 秀人	松山市で逃走車が中心部暴走、容疑男逮捕
〈作品概要〉「松山市内を車が暴走している」との一報が入った直後、編集局の複数の記者がスチールや映像のカメラを持ってさまざまな位置から暴走車の姿を捉えようと急行した。暴走車は愛媛新聞社の目の前で停車し、犯人が現行犯逮捕される瞬間の撮影に成功した。	
大分合同新聞社 編集局写真映像センター 鈴木 幸一郎	未曾有の豪雨、生活・観光の大動脈を寸断
〈作品概要〉2017年7月5日、大分県日田市を襲った未曾有の豪雨を象徴する1枚。記録的豪雨で花月川が氾濫。JR久大線の鉄橋「花月川橋梁」が流失した。通勤・通学する日田市民の足であり、大分と久留米（福岡県）を結ぶ大動脈が寸断。復旧までに1年以上を要した。	
日本放送協会 NHKスペシャルオリンピック取材班 （代表）報道局映像取材部副部長 松崎 翼 報道局スポーツ番組部チーフ・プロデューサー 小倉 洋平	NHKスペシャル「金メダルへの道 “一糸乱れぬ” 挑戦 ～女子団体パシュート～」
〈作品概要〉平昌五輪スピードスケートで絶対王者オランダに戦いを挑んだ女子団体パシュート。個で勝るライバルとの実力差を覆すため磨いた「一糸乱れぬ隊列」と「高速の先頭交代」という独自の2つの武器を全方位VR映像やCGで徹底解剖。頂点を目指すチームに完全密着した。	
日本放送協会 北朝鮮問題取材班 （代表）報道局国際部副部長 高木 優 札幌放送局技術部専任部長 藤原 誠	スクープ 北海道沖に落下する北朝鮮のICBMをNHKカメラが捉えた
〈作品概要〉NHKは2017年7月29日未明に北海道沖に光りながら落下していく物体をカメラで捉え、アメリカの専門家による分析を通じて、これが、北朝鮮がICBM・大陸間弾道ミサイルだとする「火星14型」であることを確認し、世界に向けて発信した。	

「写真・映像」部門	
被推薦者	作 品 名
日本テレビ放送網 報道局中国総局 （代表）報道局国際部中国総局長 横島 大輔	北朝鮮・金正恩委員長の電撃訪中をスクープ “初の外国訪問”を世界最速で激撮
〈作品概要〉北朝鮮をめぐり各国の外交的思惑が渦巻く中、金正恩委員長が初の外国訪問に踏み切った。訪問先は北京だった。極秘の電撃訪問で関係改善を果たし、中国を後ろ盾とすることになる。朝鮮半島情勢の重要な転換点となる瞬間を、NNNのカメラが世界で唯一捉えた。	

平成30年度新聞協会賞「編集部門」応募作品一覧

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
毎日新聞社 「旧優生保護法を問う」取材班 (代表) 仙台支局 遠藤 大志	キャンペーン報道「旧優生保護法を問う」
〈作品概要〉旧優生保護法（1948～96年）に基づき不妊手術を強制された宮城県の60代女性が初の国家賠償請求訴訟を仙台地裁に起こす方針を昨年12月に特報した。以降、長年にわたり闇に埋もれてきた障害者らへの人権侵害の実態を明らかにし、当事者救済への道筋をつけた。	
読売新聞東京本社 「孤絶 家族内事件」取材班 (代表) 編集局社会部次長 石原 明洋	長期連載『孤絶 家族内事件』（第1部～第5部）と一連の調査報道
〈作品概要〉街中にコンビニができ、ネットで注文した品物が翌日に届く。日本人は快適で便利な暮らしを手にしたはずなのに、周囲には介護殺人や児童虐待死、孤立死があふれている。ごくふつうの家庭でなぜ悲劇が起きるのか。当事者らに取材を重ね、処方箋を探った。	
日本経済新聞社 「習近平の支配」取材班 (代表) 編集局経済部次長（元編集局国際アジア部次長） 大越 匡洋	連載企画「習近平の支配」
〈作品概要〉「世界の大国」として自負を強める中国はどこに向かうのか。5年に1度の共産党大会に向けて党指導部内で繰り広げられた激しい権力闘争を軸に、「習1強」体制による強権・独善の政治が経済や社会にもたらすひずみを描いた。	
日本経済新聞社 調査報道チーム (代表) 編集局長付総合編集グループ次長 鷲森 弘	調査報道シリーズ「限界都市」
〈作品概要〉人口減時代に入ったのに、日本の都市づくりは高度成長期の発想を引きずったままだ。目先の利益を優先する開発は将来、負の遺産となる。暮らしや財政、制度に生じる矛盾をデータジャーナリズムの手法で掘り起こし、持続性のある都市像を描く必要性を訴えた。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
共同通信社 「婚難の中で」取材班 (代表) 編集局生活報道部次長 高橋 暁	長期連載企画「婚難の中で」と関連報道
〈作品概要〉50歳まで一度も結婚したことのない人の割合を示す生涯未婚率は伸び続け、今や男性の4人に1人、女性の7人に1人が該当する。結婚や家族を巡る価値観の変化は、この国の姿に大きな影響を与えている。様々な視点からこの変化を描き出した。	
共同通信社 旧優生保護法問題取材班 (代表) 編集局社会部次長 阿部 拓朗	「旧優生保護法下の障害者への不妊手術問題」一連のキャンペーン報道
〈作品概要〉「不良な子孫の出生防止」を掲げて1996年まで存在した旧優生保護法下で繰り返された障害者らへの不妊手術の問題に関し、行政の資料、障害当事者や医師らの証言を通じ「子を産む権利」を一方的に奪った実態を明らかにし、国が謝罪・補償をするよう訴えた。	
産経新聞大阪本社 編集局「関西の力」取材班 (代表) 編集局政治国際部長 大谷 卓	連載企画「関西の力」
〈作品概要〉古代から長らく日本の中心地であった関西。低迷や地盤沈下が指摘されて久しいが、実は関西人でさえ、地域に根付く「良さ」に気付いていないのではないかと。歴史や企業、地域の取り組みなどを深掘りし、未来へ向けて継承すべき「関西の力」を解き明かした。	
北海道新聞社 「こころ揺らす」取材班 (代表) 根室支局長 (前編集局報道センター部次長) 堀井 友二	連載企画「こころ揺らす」
〈作品概要〉北海道にはアイヌ民族の血を受け継ぐ人は数万人いるとされるが、自らの出自を明かさずに暮らしている人がたくさんいる。今なお偏見や差別が続くこの社会で、その人たちが抱える痛みや葛藤を伝え、アイヌとともにつくる未来の在り方を探った。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
デーリー東北新聞社 編集局報道部次長兼論説委員 今井 崇雄	連載企画「魚種変動の衝撃」など、八戸港の水揚げ魚種の急激な変動に関する一連の報道
〈作品概要〉2015年以降、八戸港など北奥羽地方の水産基地を襲った「魚種変動」。スルメイカの水揚げが激減した上に、サバも従来の半分に小さくなった。一方で、マイワシの水揚げが増加する現象も。地域に与える影響と変動の背景に迫るとともに、打開策を探った。	
岩手日報社 編集局報道部次長 榑 悟 同 八重樫 和孝	サケの乱
〈作品概要〉三陸の産業の核であるサケ。今季は震災の影響がほぼなくなるとして漁獲量回復が期待されたが、さらに失速した。なぜサケは戻ってこないのか。全国的な漁の異変や世界の動きにも触れながら、サケを通して岐路に立つ水産業、被災地の在り方を考え、提言した。	
河北新報社 大川小事故取材班 (代表) 編集局報道部長 富樫 茂	連載企画「止まった刻(とき) 検証・大川小事故」
〈作品概要〉東日本大震災の津波で児童・教職員計84人が犠牲になった石巻市大川小の事故を調査報道で詳細に検証した。生存児童らの証言や裁判資料などを基に地震発生から津波襲来までを分刻みで克明に再現。事前防災が焦点となった仙台高裁判決の意義を多角的に報じた。	
秋田魁新報社 ツキノワグマ取材班 (代表) 報道センター社会地域報道部編集委員 松川 敦志	連載「さまようクマ」および大量出没を巡る一連の報道
〈作品概要〉2016年春、秋田・青森県境の山中で男女4人が相次ぎツキノワグマに襲われ、命を落とした。秋田でクマの目撃数は年々増加。生息域は人里と重なり、市街に迫る。住民やマタギ、専門家の証言や知見から、近年、変化が著しいクマの生態とその背景を追った。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
福島民報社 連載「戊辰１５０年」取材班 （代表）編集局報道部長代理 水口 拓也	時代、国境を超えた物語「戊辰戦争１５０年 全国の史跡を訪ねて」 「第九日本初演１００年 松江豊寿の功績」
〈作品概要〉会津藩が加わった戊辰戦争の開戦から１５０年、藩士の子弟によるベートーベンの「交響曲第九番」の日本初演から１００年を迎えた。連載と関連記事により未来志向の交流実現を目指す人々の姿や第九初演を巡る地域間交流の広がりを描く。	
福島民友新聞社 「維新再考」取材班 （代表）編集局文化部長 鈴木 博幸	大型連載「維新再考」と戊辰戦争１５０年報道
〈作品概要〉「敗者に義はなかったか」。戊辰戦争１５０年に当たり、敗れた東北、福島の視点から歴史を再検証する大型連載。戊辰戦争は必要だったのか、奥羽越列藩同盟はなぜ敗れたのか、維新が残した影は。識者の最新研究と現地ルポから次代に伝えるべきものを考える。	
上毛新聞社 「移住者の四季」取材班 （代表）編集局報道部長 高桑 和彦	連載企画「移住者の四季」
〈作品概要〉人口減少と東京一極集中、地方の衰退が叫ばれ、「人の流れ」に大きな関心が寄せられている。自然増が難しい現状の中、都市部からの移住は地方に新たな活力を生み出す。群馬県内にＩターンした人たちの生の声を通じ、移住をめぐる課題を考える。	
千葉日報社 （代表）編集局地方部デスク（前成田支局長） 今井 慎也	翼の下でー内陸空港ナリタの針路
〈作品概要〉開港４０年を迎えた成田空港。かつて「農地は命」と激しい反対運動を繰り広げた地元農家も多くが後継難に直面し、「成田闘争」は歴史上の言葉になりつつある。１千ヘクタール規模の３本目の滑走路計画が進む中、内陸空港ナリタの今を多角的に取り上げた。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
山梨日日新聞社 「あしたの暮らし」取材班 (代表) 編集局報道部副部長 保阪 有	あしたの暮らし 新技術×山梨
〈作品概要〉A IやI o Tなど新たな技術が次々と出現している現代。人々の生活は効率的に、便利になり続ける一方、人から仕事を奪い、失業者や社会的弱者を生むとの懸念が強まっている。技術革新の波が地方の山梨にどんな変化を及ぼしているのか。その光と影を追う。	
静岡新聞社 「無知の知」取材班 (代表) 編集局社会部副部長 藪崎 拓也	連載企画「無知の知 『てんかん』という現実」
〈作品概要〉100人に1人が発症するとされるてんかん。近年は重大な交通事故を引き起こすとして、患者への中傷が散見される。教育、就労、出産一。患者はほかにもあらゆる場面で差別や偏見を受ける。その原因は社会の「無知」にあるとし、相互理解の大切さを訴えた。	
中日新聞社 編集局社会部「少年と罪」取材班 (代表) 編集局社会部部次長 萩 文明	連載企画「少年と罪」
〈作品概要〉少年法の適用年齢引き下げ議論の本格化に合わせて、少年事件の実態や更生のあり方、加害者や被害者・遺族を取り巻く状況、インターネット時代の少年事件の特性などを、全9部(44回)の連載記事と5回(6ページ)の特集面で多角的、総合的に報じた。	
岐阜新聞社 人口減取材班 (代表) 編集局生活文化部長 沢野 都	連載企画「ぎふ 人口減を生きる」
〈作品概要〉人口減少をテーマに止めようにも止まらない日本社会の潮流に向き合う人々の姿を「産み育てる」から「逝く」まで人生の歩みに沿って6部連載。人口も経済も右肩上がりだった時代の価値観にとらわれない人口減少時代を生き抜く新たな価値観の創造を探った。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
新潟日報社 にいがた経済R取材班 (代表) 編集局報道部経済担当部長 相田 晃	連載企画「にいがた経済R」
〈作品概要〉アベノミクスの効果は地方に及んでいない、むしろ地方経済の地盤沈下は進んでいる一。そうした危機感を背景に、新潟県経済の課題を明らかにし、活性化の方策を探った。新潟県経済を通して日本全体の地方経済、引いては日本経済の針路を考えた企画である。	
北日本新聞社 「米騒動100年」取材班 (代表) 編集局社会部次長 室 利枝	連載企画「米騒動100年ーひるまず たおやかに」
〈作品概要〉今年は、富山の漁師町から全国に広がった米騒動から100年を迎える。民衆の声が政治を動かした歴史的な出来事に改めて光を当てた連載企画。単に歴史をひもとくのではなく、米騒動をさまざまな切り口からとらえ、現代とのつながりや社会の在り方を考えた。	
北國新聞社 戦場の大和堆取材班 (代表) 加賀支社長(前編集局社会部主任) 竹森 和生	連載企画「戦場の大和堆(やまとたい)」を中心とする北朝鮮違法漁船問題に関する一連の報道キャンペーン
〈作品概要〉北朝鮮の違法操業船に占拠された能登半島沖の好漁場「大和堆」に焦点を当て、危険に直面するイカ釣り漁師の苦悩と知られざる侵略行為の実態、背景にある北の国内事情に迫った。無謀な漁の末に発生した「漂着船問題」を通し海の安全保障についても再考した。	
京都新聞社 報道部取材班 (代表) 編集局報道部社会担当部長 岡本 晃明	終戦期の湯川日記発見、連載「帝国の骨」等、天皇の代替わりを機に平和、憲法を考える一連の報道
〈作品概要〉天皇の代替わりを機に、皇室にゆかりの深い京都と、天皇制や憲法、戦争協力、部落差別の関わりを地元紙として考えた。原爆研究への関与を示す京都帝国大の湯川秀樹博士の終戦期日記スクープから大学への防衛研究費問題を追うなど歴史から今日的課題を追った。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
山陽新聞社 「壁を越えて」取材班 (代表) 編集局報道本部長 板谷 武	連載企画「壁を越えて 障害者就労と地域」
〈作品概要〉700人を超える障害者は、なぜ解雇されなければならなかったのか。昨夏以降、岡山、広島県などで相次ぐ就労継続支援A型事業所による大量解雇。手厚い補助金で支えられた障害福祉サービスの裏側で何が起きているのか。問題の原因と背景を徹底検証した。	
中国新聞社 「イワクニ 地域と米軍基地」取材班 (代表) 編集局報道部 城戸 収	企画「イワクニ 地域と米軍基地」
〈作品概要〉米軍岩国基地は3月、空母艦載機の移転が完了し、120機を有する極東最大級となった。騒音は広がり、中国山地での低空飛行は続き、事故の恐れも増している。軍事機密の壁を前に記者が基地近くに移り住み、調査報道を駆使して地域と基地のありようを考えた。	
山陰中央新報社 「さんいん改造論」取材班 (代表) 編集局次長兼政経部長 松村 健次	連載企画「さんいん改造論～新幹線の可能性」
〈作品概要〉人口減少で地域疲弊が進む山陰両県。政治、行政の不作为が、JR三江線廃止のような衰退を招いた。一方、全国では新幹線効果が地域に活力を与えている。山陰の二つの計画は凍結状態だが、地域浮揚策にならないか。一石を投じるため新幹線の可能性を探った。	
徳島新聞社 編集委員 藤長 英之	連載企画「第九永遠（とわ）なり 鳴門初演100年」
〈作品概要〉1918年6月、第1次大戦中の板東俘虜収容所（徳島県鳴門市）でベートーベンの交響曲「第九」がドイツ兵捕虜によって日本で初めて演奏された。この史実は今を生きる私たちに多くの教訓を投げ掛ける。初演から100年。鳴門の第九が現代に問う意味を考える。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
高知新聞社 古地図ナビ取材班 （代表）編集局学芸部 楠瀬 慶太	年間企画「土佐古地図ナビ」
〈作品概要〉教科書や博物館で学ぶ歴史の中には、私たちの身近な場所で起きた事象が多数ある。大政奉還から150年目の2017年。記者と住民が古地図を見ながら現地を歩き、歴史上の人物に扮（ふん）して歴史事象を“再現”し、土佐の地域史を足元から探求した。	
西日本新聞社 あなたの特命取材班 （代表）編集局社会部デスク 坂本 信博	「あなたの特命取材班」
〈作品概要〉従来の新聞報道が「知るべき」「知らせたい」ニュースに軸足を置いてきたのに対し、SNS（会員制交流サイト）などを介して記者が読者と直接つながり、暮らしの疑問から地域の困り事、行政や企業の不正まで、読者の「知りたい」に双方向のやりとりと取材力でこたえる新たな報道の仕組みを生み出した。	
西日本新聞社 九州豪雨取材班 （代表）編集局社会部長 宮崎 昌治	災害における実名報道―地元紙として九州豪雨をどう報じたか
〈作品概要〉2017年7月、福岡、大分両県を襲った九州豪雨で、行政当局が公表していない安否不明者全員の実名を取材に基づいて新聞社の責任で紙面掲載。地元紙として捜索の手掛かりを示すとともに、一昨年の熊本地震に続く大規模自然災害に際して教訓を生かし、被災者に寄り添う報道のあり方を問題提起した。	
熊本日日新聞社 「熊本地震 あの時何が」取材班 （代表）編集局編集委員室編集委員兼論説委員 岩瀬 茂美	熊本地震 あの時何が
〈作品概要〉2016年4月、2度の激震に襲われた熊本の被災地で、苦境と立ち向かった人々の姿を詳細に描く。行政や病院、FM局、動物園、百貨店、工場、ボランティア…。さまざまな現場で続いた懸命な闘いの記録からは、葛藤も交えた「生きた教訓」が浮かび上がる。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
大分合同新聞社 「飛び出せ学校」企画・制作グループ （代表）地域コミュニケーション局地域連携室シニアマネジャー 井上 明	教育企画「飛び出せ学校」
〈作品概要〉小学生が地域を調べ、課題を考え、新聞にまとめることで古里を見つめ直す企画。2003年から15年間で150校3576人が取り組んだ。新聞作りは本紙記者が教え、児童が主体的に新聞を作る。地域に根差した“大分スタイル”の息の長いN I E活動として定着している。	
宮崎日日新聞社 「自分らしく、生きる」取材班 （代表）編集局生活文化部長 中川 美香	自分らしく、生きる 宮崎から考えるL G B T
〈作品概要〉地方の宮崎でもL G B Tの当事者が声を上げ始めた。地域や学校で差別や偏見に苦しみ、孤立している当事者、とりわけ子どもたちの厳しい現状が見えてきた。シリーズでは国内外の先進事例も多角的に取材し、地域としてどんな未来像を目指すべきかを考えた。	
南日本新聞社 「いのち見つめて」取材班 （代表）編集局文化生活部副部長 川口 智子	連載企画「かごしま いのち見つめて」
〈作品概要〉多死社会に突入した日本。人の死も以前より身近にある。だが、人々の心は追いついていないのであろうか。終末期医療やみとりといった視点から「死」に向き合い、変わりつつある日本人の死生観を探った。	
沖縄タイムス社 米軍基地問題キャンペーン報道取材班 （代表）編集局政経部長 宮城 栄作	「生活」「教育」の現場から見た米軍基地問題のキャンペーン報道
〈作品概要〉沖縄の基地問題では、名護市辺野古の新基地建設が注目されるが、問題の一つでしかない。米軍機の墜落や不時着、学校への部品落下…。日常生活の中で頻発し、県民の暮らしを脅かす。身近にある事件事故から、基地問題が人権問題であることを提起する。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
琉球新報社 連載「駐留の実像」取材班 (代表) 編集局政治部 島袋 良太	連載「駐留の実像」
〈作品概要〉在日米軍が集中する沖縄から見える日米地位協定や駐留経費負担の在り方を問う連載。訓練、事件・事故、環境汚染などの具体的事例を基に、住民生活への影響や主権侵害の実態を伝えた。同じく米軍が駐留するドイツやイタリアも訪ね、課題を比較して報じた。	
日本放送協会 「戦慄の記録 インパール」取材班 (代表) 大型企画開発センターチーフ・プロデューサー 三村 忠史	NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」
〈作品概要〉太平洋戦争で最も無謀と言われたインパール作戦。今回初めて可能となった国境地帯の取材や、新たに発掘したイギリス軍による尋問調書、従軍した将兵の日記などから、悲惨の作戦の全貌を明らかにし、先の大戦に関心の薄い若い世代にも大きな反響を呼んだ。	
日本放送協会 NHKスペシャル「失踪」取材制作チーム (代表) 報道局社会番組部チーフ・プロデューサー 石田 望 報道局社会部副部長 板倉 弘政	NHKスペシャル「#失踪 若者行方不明3万人」
〈作品概要〉1年間に行方不明となる10代、20代の若者層は年間3万人超。番組では失踪した若者たちにSNSを通じて接触。さらに失踪が刑事事件となったケースを追跡、NPOによる失踪した若者の一時保護の現場にも密着することで現代の“失踪空間”の実態に迫った。	
日本放送協会 東日本大震災“河川津波”取材班 (代表) 報道局社会部副部長 岩田 敏志	NHKスペシャル「“河川津波”～震災7年 知られざる脅威」
〈作品概要〉2万人を超える人が犠牲になった東日本大震災。甚大な被害をもたらした要因の一つが“河川津波”であることが最新の研究で分かってきた。決定的な目撃証言と映像を掘り起こすとともに、最新の解析技術によってその脅威を再現、今後の災害への警鐘を鳴らした。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
TBSテレビ 社会部「なくせ！危険運転」取材班 (代表) 報道局社会部 内野 優	東名夫婦死亡事故をめぐるスクープと「なくせ！危険運転」キャンペーン
〈作品概要〉2017年6月、東名高速で夫婦が死亡した事故の原因が、あおり運転だったことを、夫婦と同乗していた長女の証言とともにスクープ。事故を繰り返さないための解決策を考える「なくせ！危険運転」キャンペーンを展開し、行政や法律の不備を浮き彫りにした。	
日本テレビ放送網 NNNドキュメント南京事件取材班 (代表) 報道局ニュースセンターチーフディレクター 清水 潔	NNNドキュメント'18「南京事件Ⅱ 歴史修正を検証せよ」
〈作品概要〉「南京事件はなかった」とする歴史修正が今も一部の政治家やネットで広がりを見せる。番組では南京戦に参加した日本兵の陣中日記等を元に銃殺の詳細や現場を明らかにした。さらに歴史修正の根拠を検証し軍幹部が戦後に言い出した弁明だったことを突き止めた。	
テレビ朝日 (代表) 報道局情報番組センターチーフプロデューサー 東 卓夫	テレメンタリー2018「握られた命運～守られぬDV被害者～」
〈作品概要〉夫のDVが原因で離婚した女性は転居先の住所を元夫に知らせないでほしいと自治体に申請し認められた。ところが自治体は、元夫の弁護士からの請求に応じて女性の住民票を渡してしまった。なぜDV・ストーカー被害者の住所が自治体から漏洩するのか。制度の問題を追った。	
テレビ朝日 報道ステーション・社会部 原発取材班 (代表) 報道局報道番組センター 瀬川 圭介	報道ステーション311企画「福島第一原発の“いま” 廃炉に立ちはだかる“壁”」
〈作品概要〉福島第一原発の事故から7年。かつてない廃炉作業の最前線で何が起きているのか。最新の原子炉内部の映像を検証するとともに、廃炉の“先例”から見えてきた課題を追った。そして、専門家が語り始めた、廃炉作業を“急がない”選択肢…その真意とは。	

「企画」部門	
被推薦者	作 品 名
東海テレビ放送 名張毒ぶどう酒事件取材班 （代表）報道局報道部長 齊藤 潤一	伝える、つなぐ～名張毒ぶどう酒事件報道の40年～
〈作品概要〉東海テレビでは名張毒ぶどう酒事件の発生直後から独自取材を続け、この事件は冤罪の可能性が高いと確信し、これまでに140回以上のニュースや企画、7件のドキュメンタリーを放送した。また番組を映画化して全国の劇場で公開したほか書籍も発売している。	
朝日新聞社 共同通信社 朝日新聞社パナマ文書・パラダイス文書取材班、共同通信社パナマ文書・パラダイス文書取材班 （代表） 朝日新聞東京本社編集局編集委員 奥山 俊宏 共同通信社編集局特別報道室編集委員 澤 康臣	国や報道機関の壁を越えた共同取材によるパラダイス文書、パナマ文書の調査報道
〈作品概要〉タックスヘイブン（租税回避地）の内部文書をもとに、国際調査報道ジャーナリスト連合（ICIJ）と連携し、国や社の壁を越えた共同取材で、国内の公人や著名人、企業と租税回避地の関わり、米閣僚関連企業とロシア大統領周辺企業の取引などを明らかにした。	